

学習・教育クラウド・プラットフォームのアイデア募集結果一覧

注) 表記は受付順。

No.	募集 種別	提案者名	提案タイトル	提案内容(抜粋)
1	(1)	(個人)	これからの教育の形	・生徒一人一人にパソコンを支給(現在も既にタブレットが支給されている様で 2020 年までに全生徒に行き渡る予定との事) ・授業は各教科、日本一に選ばれた教師がパソコンの中の動画(録画)で行う。 ・これにより全ての生徒がそれぞれのペースで日本一の教育が受けられるようになる。 ・授業のペースは動画(録画)なので速度調整で変更可能。 日本一の授業を 2 倍速で受ける生徒も現れる。 ※これで天才が育たなかったらおかしい。 ・理解できない所は戻って、理解できるまで何度でも場所を問わず授業を聴ける。 ・おおまかな授業は子どもたち自身で決め、好きな勉強をさせてあげる。 二時間連続同じ科目を受ける事も可。 ・自主性を尊重することで生徒自らが考え、調べ、興味あるものに集中させる事で力を発揮できる。 ・テストもパソコンで行うので、現職教師の負担は大幅減。代わりに先生には道徳(愛)を徹底的に学んでもらい生徒に教えていってもらう。 ・テストをクリアするごとにパソコン上でアイテムやキャラクターカードなどが手に入るなど、子どものコレクター魂をくすぐり、勉強をゲーム感覚にさせ、自宅でも進んで勉強する子にさせる。 ・おおまかな授業は子どもたち自身で決め、好きな勉強をさせてあげる。 二時間連続同じ科目なども OK ! ・以上を導入すれば違和感なく飛び級制度を導入できる。 各々のペースでの勉強となり、劣等感を抱く生徒が減る。 ・不登校の生徒やフリースクールに通う生徒にも日本一の教育が提供できる。 ※子どもたちは個性を伸ばす教育をすれば全員天才になります。 それこそが日本の国力アップにつながり、これからの日本を引っ張ってってくれる人材を育てることが出来る
2	(1)	(個人)	VoiceTra4U を使用した英語教育	スマートフォン翻訳アプリケーション「VoiceTra4U」を使用し、英語授業で旅行英会話を学ぶ。
3	(1)	北海道東川町教育委員会	東川町版 ICT モデル	■より安全で安定的な東川町版クラウド化の提案 ■ハイブリットなタブレット型パソコンの提案 ■手軽な実物投影機の提案
4	(2)	大阪府立東百舌鳥高等学校	タブレットを用いた情報共有授業	* 協働学習等アクティブラーニングの授業での提案。複数の生徒が個別に、場所・時間を限定されず、個人の端末からクラウドにある1枚のボードに意見を書き込み、共有し、整理する。(KJ 法やブレインストーミングを非同期で行う) * 一斉授業内で、個々の生徒がノートの代わりにタブレットを用いる。その際、教員が課題を配布、全体に提示・添削をリアルタイムに行い(本校で試用中の reltime-LMS 等のクラウド技術を活用したサービスを使用する)、より効率的な授業を構築する。(数式やグラフ等、手書きのイメージを扱う)

No.	募集 種別	提案者名	提案タイトル	提案内容(抜粋)
5	(2)	掛川市教育委員会	確かな学力の定着と協働的な学びを 促進するコンテンツ・アプリの活用	ア 学びに適したコンテンツ・アプリの活用 ・指導者用デジタル教科書を効果的に活用した学習課題の提示 ・学習者用デジタル教科書を利用した家庭学習と、次時の授業との連携 ・1つのワードから、複数の情報を表示・閲覧できる教材検索データベースや、 デジタル資料集の利用による協働的な学びへの支援 ・全国レベルによるデジタル教材の共有化 イ クラウドにおける習熟度に応じた支援 ・学習計画作成や学習履歴蓄積による適切な評価と個別支援 ・クラウド上で行う確認テストに連動した基礎基本定着のための支援 ・学習内容(予習、復習)の解説動画コンテンツの充実
6	(1)	福島県新地町	「震災を乗り越えるICT活用の先導的 学習支援」を支えるクラウド活用	I OSに依存しないクラウドを活用した学習コンテンツによる家庭学習 (反転授業の内容を含む)の充実と学力向上 II クラウドを活用したデジタル教材(オープン教材)の共有化とICT授業実践 III クラウドを活用しての多面的な心のケアと支援(情報共有) IV クラウドを活用したLMSによる児童生徒の学習履歴管理と校務支援 V クラウドを活用しての非常変災時の早期対応と授業実践 VI クラウドを活用した子どもたちによるARコンテンツ作成 (総合的な学習の時間)と新地町との連携) 【学校・家庭・地域が連携したICT教育】 ○OSに依存しない教育クラウドの構築による学校情報の管理・活用 (LMSによる児童生徒の学習履歴管理と校務支援による学校情報の一元管理) ○ICTを活用した家庭学習の常態化、反転授業の普及、ICT活用による授業の標準化 ○総合的な学習におけるARコンテンツの利活用と能動的な地域理解と情報発信 ◎先導的学習支援から個々の児童生徒の能動的学習へ
7	(2)	福島県新地町	「震災を乗り越えるICT活用の先導的 学習支援」を支えるクラウド活用 II	クラウドを活用したデジタル教材(オープン教材)の共有化と家庭学習用のコンテンツ(反転授業教材を含む)を充実させることで、児童生徒の学力向上を図る。学校・家庭・地域を結び、子どもたちの豊かな教育環境を創る。 生徒が利用するアプリ及び利用権限の制限 利用制限を与える機能により、学習者が情報に惑わされることなく課題にじっくりと取り組む時間を確保する ・ 利用するアプリの制限 ・ 利用できる Web サイトの制限(ホワイトリスト形式) 学習者のノートを記録、自動的に各教科フォルダへ振り分け 電子黒板等 ICT 機器使用によるノート整理の不安解消及び学習者のフォローアップ ・ 簡単な操作によるノートの記録 ・ 自動的なフォルダ振り分けによる閲覧時の負担軽減

No.	募集 種別	提案者名	提案タイトル	提案内容(抜粋)
8	(2)	株式会社京都教育システム研究所	「中学受験を目指すような子どもから、学習障害と判定された子ども一緒に学べる」 ～桂セカンドスクール(滞在型個別指導塾)でのクラウドプラットフォーム学習利用法～	Step1 新単元導入期 目と耳からインプット 文字から又は音声などから自分に合うアプローチを見つける。 Step2 理解確認期 口からアウト・耳からインプット どうしてそのアプローチが好きなのか、どこがわかりやすかったのか「発表→認知」させる。コミュニケーションスキルも高める。 Step3 理解を深める期 耳・手・鼻からインプット 仲間の意見を聞いたり、講師からの補足教材(触ったり、においが嗅げる)を取り入れる。 Step4 目・鼻・口・手からアウトプット IRT 理論のような自分の理解度に合わせた問題を繰り返し行う。(小学生はタッチペンを用いて書くことも重要)
9	(1)	一般社団法人デジタル教育研究所	学習・教育クラウド・プラットフォームのご提案	●技術的要件の提案、『バーチャルライブラリー』による電子書籍化した作業&コスト軽減が可能。将来は再加工し再利用も可能。(資料1) ●学習クラウドの機能の提案、学習問題の自動配信システム『もばぜミ』の利用により、学習指導法の効率アップ、また学習能力アップを可能。(資料2) ●技術的要件の提案、『eポートフォリオ』により児童生徒の個々の管理が可能。出欠席、小テスト、定期テストなどを管理、面倒なハードやソフト管理、サポート体制もフォロー可能。(資料3) (利点として、『教科書を持ち運ぶ必要がない』『反転学習として履修したテスト・動画のログが取れる』『必要なプリント類も一斉送信できるため、経費のコスト削減も可能』 授業のサポートとして、教員 OB の活用を検討。教員 OB にICT指導員として参加してもらうことにより、授業のきめ細かい対応が可能。過去の蓄積された経験を活かしながら、新規の雇用も生まれる)
10	(2)	静岡県教育委員会	静岡県の提案	学習・教育クラウド・プラットフォームの活用により、教員・生徒・家庭が一つにつながり、個のニーズに対応した学習を支援する。 【利用例】 ・デジタル教材等を活用して、一斉学習では興味・関心を高め、個別学習では個々の理解の程度に応じる。【教材の活用】 ・生徒のノートを撮影、協働学習支援アプリにより、電子黒板にまとめて表示する。【協働での意見整理】 ・体育で、生徒同士が演技を撮影、協働学習支援アプリにより、お互いの良いところや改善点を指摘する。【学び合い】 ・英語で、授業のまとめのロールプレイを撮影、学習記録アプリに保存して、授業や評価で活用する。【学習記録】 ・海外研修の成果発表を、教育用 SNS などにより後輩や保護者に公開する。【学校・家庭との連携】
11	(2)	佐賀市立西与賀小学校	1人1台のタブレット環境による学習展開の工夫	○学習・教育クラウドプラットフォームを活用し、1人1台のタブレット環境による学習展開の工夫。 ○これまで算数科を中心に培ってきた学習過程を生かし、学習・教育クラウドプラットフォームを活用し、他の教科に活用の枠を広げ、ICTの更なる効果的、効率的な授業のあり方を模索する。【転移力の活用】
12	(2)	学習塾 ipal アイパル	21 世紀型「個別+自律」教育の実現	21 世紀型スキルとして重要な個性や独創性を育むために必要な生徒一人ひとりの学力や目標に合わせた「個別カリキュラム」と、自立心や主体性を養うために不可欠な生徒主導で学習を進める「自律型学習」の両方を実現するための教育プラットフォーム構築と ICT の活用
13	(1)	公立はこだて未来大学	消費者生成メディアによる教材と教材部品の共有	公立はこだて未来大(未来大)は、現在まで毎年、市内の小中学校と連携し、ICT を用いた教育(タブレット等による授業等)を提供してきた。今後は、1)未来大と地域の小中学校の連携によるお互いの学び合い、2) わかりやすく興味をひきつけるコンテンツやアプリによる学力向上、3)学習意欲の向上と国際化教育を含めた視野を広げるための学習、4)教材の共有化により教員が授業で必要なコンテンツを簡単に作成、5) 地域の学校との連携による教材の共有、6) 反転学習・反復学習などを行っていきたい。 そのために、地域との連携による「学習コンテンツおよびアプリ」の開発、教材と教材の部品を共有できる「消費者生成メディア」を開発していきたい。

No.	募集 種別	提案者名	提案タイトル	提案内容(抜粋)
14	(2)	北海道天塩郡遠別町	過疎地域における教育の質的向上に向けて	過疎地域における教育の質向上に向けたクラウドプラットフォームの活用 【目的】都市部との教育機会格差は正(テーマ A)および低学力層の学力向上(テーマ B)に向けて ICT を効果的に活用することで、教育の質的向上を図り、過疎地域における子供たちの将来の選択肢が広がる教育を目指す。 【内容】①テレビ会議システムを活用した遠隔地とのつなぐ授業の展開 ②授業支援ソフトを活用した問題解決型授業の効果的展開 ③デジタルコンテンツや e ラーニングを活用した個に応じた学びの展開
15	(1)	三鷹市教育委員会	校務支援クラウドとの連携によるシームレスな教育	「学習・教育クラウドプラットフォーム」と「校務支援クラウド」にデータ連携機能をもたせることにより、義務教育 9 年間のシームレスな教育環境を構築する。このシステムは以下の4つの取組を可能とするものであり、コミュニティ・スクールを基盤とした小・中一貫教育を推進し、家庭の教育力の向上に取り組んでいる三鷹市にとって大きなメリットをもたらすものである。 ①「学習・教育クラウド」に蓄積した学習履歴を学年・校種を越えて「校務支援クラウド」で共有することにより、児童・生徒指導要 録と併せたより詳細な引き継ぎを可能とし、既習事項に対する児童・生徒の理解・習熟の状況を踏まえて適切な支援や手立てを講じた学習指導を実現する。 ②「学習・教育クラウド」の豊富なデータを「校務支援クラウド」で活用することにより、学習評価の精度を向上させる。 ③「学習・教育クラウド」に家庭からアクセスできるポータル機能をもたせ、「校務支援クラウド」からの情報(授業予定、家庭学習課題、連絡事項等)を掲示することで学校教育に対する保護者の関心を喚起し、学習習慣の定着に向けた取組を充実させるなど、家庭の教育力の向上につなげる。 ④「学習・教育クラウド」では授業で活用できるデジタル教材と児童・生徒が活用できる学習コンテンツを提供する。学習コンテンツを家庭での予習・復習に活用することにより、学習習慣の定着を図る。
16	(2)	滋賀県草津市教育委員会	遠隔授業による学校教育創造事業 ～くさつ 伝えるつながるプロジェクト～(案)	〇市内に推進校を指定するとともに、各小中学校等に ICT 機器を活用し、遠隔授業システムを構築することで、双方向通信を用いて授業支援を行い、児童生徒のコミュニケーション能力の育成を図る。 〇理数教育や英語教育ならびに、プログラミング教育の充実を柱として、専門家との授業機会を設定し、交流を進めることで、児童生徒の確かな学力を保障する。
17	(1)	株式会社マナボ	スマートフォンアプリを用いたオンライン個別指導の提供	過疎地域の児童・不登校児・長期入院病児など学習環境に障害のある児童に対して、我々の提供するアプリ「スマホ家庭教師 mana.bo(マナボ)」を使用したオンライン指導を学習クラウドと連携させることで課題解決します。 【ICT ドリームスクールの理念に沿った提案ポイント】 「個に応じた最適な学び」・・・ 指導は 1 対 1 のリアルタイムでインタラクティブに展開。生徒側が指導講師を選択できます。 「誰でも」・・・ 指導は WEB カメラ、テレビ電話でなく、チャット、通話、画面を使ったホワイトボード機能で展開。不登校、病気などの伝えたくない背景があっても個人情報を明かさずに指導を受けられます。 「いつでも」・・・ 講師は PC、スマホから利用可能。全国の講師リソースを活用できるため、受講時間が講師や教室の事情に依存しません。 「どこでも」・・・ スマホアプリのため、スマートフォン端末と回線のみで利用可能です。 「安全安心」・・・ 個人情報を明かさない指導形態。また指導上のやりとりはサーバーに記録。またアプリを利用することにより、従来の教育サービスでの問題(夜の通塾による外出、講師と生徒の個人的なトラブル)を回避できます。 【学習・教育クラウドプラットフォームに求められる要件に対する mana.bo の相性】 「低コストでの全国展開」「多様な端末への対応」・・・ スマホアプリのため、全国の学校・家庭ともに低コストかつ拡張性を持っています。 「個へのニーズの対応」・・・ 動画配信タイプのオンライン教育でなく、一対一の個別指導のため個のニーズに対応可能です。 「安全性・使いやすさの確保」・・・ すでに一般ユーザーを抱えているサービスのため共に担保しています。

No.	募集 種別	提案者名	提案タイトル	提案内容(抜粋)
18	(1)	(個人)	普通の先生がICT機器を使った授業ができるようになる学習クラウド	目標は普通の先生がICT機器を使った新しいスタイルの授業ができる 学習クラウドでコンテンツ図書館クラウド、先生用 e ラーニングクラウド、 生徒用 e ラーニングクラウド、遠隔地授業クラウドで構成される。
19	(1)	日本電信電話株式会 社	学習クラウドの利用シーンおよびポイ ントとなる技術について	1. 学習クラウドで実現すべき利用シーンは下記の 3 点 (1)学校家庭連携の実施 (2)つなぐ授業(遠隔授業)の実施 (3)優良なコンテンツの流通 2. 学習クラウドの実現に向けてポイントとなる技術は以下の 4 点 (1)Single Sign On(SSO) (2)マルチ OS/HTML5 (3)堅牢なセキュリティ環境(4)データフォーマット統一
20	(2)	八王子市立第一中学 校	家庭学習での活用	内容: 1、家庭学習として活用する。 a ドリル実施(国語・数学) b 日記の作成 2、翌日の授業で答え合わせを行う。 対象: 特別支援学級(知的障害課程)生徒6名
			学習教室での活用	内容: 学習教室(本校が週2回放課後に行っている、自学自習のための学習の場。学習面に心配のある生徒が自主的に参加していて、外部サポ ーターを2名を配置している)で、個別の課題に沿った課題を提供する。※今後こういうことができることを期待する。
			別室学習での活用	内容:別室(これは本校独自のもので、不登校傾向のある生徒で、学校には登校できるが、教室に入れない生徒のための教室である。学校 サポーターがつき、メンタル的なケアをしながら自学自習の補助を行っている。)にいる生徒に、授業の内容・様子を動画で伝える。※今後こ ういうことができることを期待する。
21	(2)	株式会社メイツ	—	株式会社メイツ HP(http://mates-edu.com/)に記載 http://mates-edu.com/
22	(2)	(個人)	インクルーシブ教育に向けた学習ク ラウドの効率的利用について	平成 24 年 7 月の中教審初等中等教育分科会での「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推 進(報告)」から「障害のある子どもが十分に教育を受けられるための合理的配慮及びその基礎となる環境整備」が求められている今この機 会に、学習クラウドの活用が必要である。 特に、グレーゾーンの児童生徒の支援は個の実態にもよるが、教科書だけでは学習が困難である。学習面での具体的な支援については、 各学校や教員に任されており手探り状態である。国として視覚的に優れたデジタル教材を誰もがいつでもどこでも活用できるようにしていくこ とが必要である。
23	(1)	株式会社 Ednity	学内コミュニケーションプラットフォー ム「ednity」	ICT というその名の通り、まずは情報共有やコミュニケーションを取れるプラットフォームが必要。公教育で活用する上で最も重要なことは 安全に安心して先生方が活用できるという点。一般のコンシューマーサービスをそのまま活用することはできない。会社内のコミュニケーショ ンサービスの学校版というイメージ。インターネットへのアクセス環境内であれば、どのデバイスからもブラウザで利用可能。ネイティブアプリ は対応中。クローズドなグループ内で、先生や生徒は、テキスト、画像、動画、ドキュメントなどを共有し合う。情報共有の効率化、学校生活で 自分が学んだこと、どんな些細なことでも共有する文化を根付かせる。

No.	募集 種別	提案者名	提案タイトル	提案内容(抜粋)
24	(1)	一般社団法人日本オープンオンライン教育推進協議会(JMOOC)	—	2012 年以降世界中には 3000 を超える MOOC 講座が提供されている。それらの多くは一定の品質が担保された高等教育機関が提供する「本物の講座」である。これらを児童生徒が学習できるような支援機能／体制を構築することにより、若い世代が本物の世界の知識に触れ、学ぶことの楽しさ、すばらしさに目覚めてもらえるような環境を構築する。
25	(1)	ピープルソフトウェア株式会社	教育クラウドを活用した学習進捗管理	・学習進捗情報も統一フォーマットで管理し、学校と塾などの連携を実現。・過度に重複する学習からの負荷を軽減し、放課後の時間を作り出す。・進捗情報がクラウド上にて把握されているため、自分に足りない学習や更に伸ばしたい学習についても用意に挑戦させることができる。
26	(2)	有限会社遠州パソコン寺子屋	いつでも、どこでも、だれでも、なんでも、学び愛	いつでも、どこでも、だれでも、なんでも、学び愛 地域の子供たちの無限の可能性のため、大人ができることは高速インターネット環境と学習教育クラウドプラットフォームなどの ICT ツールを与えること、また使い方の方向性だけを教えるのみ。それだけで、問題解決能力のある、グローバル人材が育成される。
27	(1)	島根県隠岐郡海士町公営塾(島前ふるさと魅力化財団)隠岐國学習センター	小規模校集合体バーチャルクラスルーム 離島中山間ネットワークをつくるクラウド遠隔授業システム	離島中山間地域にある小規模校は生徒数が少なく、また教員も少ないため習熟度授業を行うことが難しい。複数の小規模校に通う生徒たちをクラウド上のバーチャルクラス(遠隔授業)に集め習熟度別の授業を実施することで、学習効果を高める。さらにマンネリ化している生徒コミュニティに適度に揺さぶりを与え学習環境の刺激にもなる。またバーチャルクラスのため一般的な塾とは異なり教科毎・単元毎の習熟度別が可能となる。
28	(2)	島根県隠岐郡海士町公営塾(島前ふるさと魅力化財団)隠岐國学習センター	島留学生(高校生)を抱える島前地域学力向上リメディアル	島前地域唯一である島前高校は毎年、一学年の半分程度本土からの留学生(三年間寮生活)が入学する。その多様性も魅力であるが学力差異も大きく高校での習熟度別授業の実施に負荷が大きい。入学前に島内・島外の学力差を縮めるために島前三島の中学三年生にクラウド上の学習コンテンツを十分に実践する。またその学習履歴を活かして対面指導の質を高める。学習履歴を高校教員に伝えてることで情報共有のスピードを高める。
29	(2)	五泉市立五泉小学校	デジタルアーカイブの構築を基盤とした協働学習モデルの開発と実践	①学校・家庭・地域と連携した映像デジタルアーカイブの作成 ②教員と児童との協働作業によるデジタル教材の開発と蓄積 ③デジタル教材を活用した異年齢集団による協働学習の実践 ④デジタル教材を活用した家庭学習の推進と保護者との学習履歴の共有 ⑤デジタルポートフォリオの活用による評価と学習ガイダンスの充実
30	(2)	東京都立光明特別支援学校	院内学級における学習クラウドを活用した支援	院内学級の課題として、同年代の子ども同士の関わりが少ないことがあり、セキュアな環境で手軽に扱えるビデオ会議システムによる交流活動・中継授業が有効である。また、病室内や自宅において補習や宿題ができる学習コンテンツにより、学習時間の確保も期待できる。前籍校と情報を共有することにより復学時の不安を減少させることができる。
			肢体不自由特別支援学校での学習クラウドの活用	肢体不自由児が学習で活用できるアプリがアクセシビリティ、内容のどちらの面でも現状では不足しており、場所を問わずアクセスできる学習コンテンツでこれらが提供されると ICT を活用した学習環境が大きく広がる。また、容易なカスタマイズや学習履歴の保存が可能になると ICT を利用した個に応じた学習を継続して実施することが期待できる。
31	(2)	富士山 BB 教育情報化研究会	ICT 学習支援プラットフォームによる学習・教育クラウド活用	ICT 学習支援プラットフォーム*1 による教育・学習クラウド活用 テーマ:教師による再利用可能な協働学習レシピの作成と共有 *1:提案者が開発した WEB アプリケーション

No.	募集 種別	提案者名	提案タイトル	提案内容(抜粋)
32	(1)	倉敷市立豊洲小学校	現場サイドで考えた学習クラウドのあり方に対する提案	1 止まらない たくさんの端末が一斉に接続するような学習指導は、よくあるパターンで、駒の細に学校のサーバーが降り図することはよくある話である。クラウドでは、考えにくいことかもしれないが、「NHK for スクール」等の動画サイトに一斉接続をした場合も考えられるので、キャッシュのスペースを十分に確保し、「止まらない」クラウドとなって欲しい。ちょっとしたことで止まるようであれば、現場としては大変困るし、普及の妨げとなるものと考えられる。 2 簡単にアップできる 今回の実証では、一人一台のタブレットを使用できる環境を実現でき、パーソナルな端末の使用感であると考えられるが、今後と導入を考えている自治体では、学校に40台を1セットと考え、何セット導入するか、という環境整備になっていくものと考えられる。経験値からではあるが、タブレットのデータが残ってしまうと、次に使用する際に児童の興味関心が授業から離れ、残ったデータに流れてしまうことがよくある。特に画像データは、再使用することがよくあり、クラウド上に個人のドロップボックスのようなものが設定でき、タブレット使用後、自動的に吸い上げられるような仕組みがあると、タブレットの使用が非常にスムーズに広がっていくものと考えられる。 3 安心・安全の確保 校内のWifi環境の整備が進んでいく中で、電波の垂れ流しが気にかかっている。実際、児童生徒が下校した後、教室内のWifi環境は、基本的に不必要となってくる。翌朝までは、電波の垂れ流しの状態となる。セキュリティがしっかりしていれば、進入等は考えなくてもいいのだが、クラウドに各校ごとに設定できるモデムのコントローラーを置き、簡単に設定できるようにすれば、必要以外の電波を流さなくてもすむのではないかと考える。これは、外部のサイトにつなぐ必要があるときにも、必要な時間帯だけ接続できるというメリットも発生する。また、端末を家庭に持ち帰り、クラウドにつなぐ際も、時間設定できれば、夜中の端末等の使用についても制限でき、保護者にあらぬ心配をかけずにすむものと思われる。家庭とのシームレスな環境の実証を目的の一つに挙げている今回の取り組みでは、必須のものではないかと考える。
33	(1)	株式会社デジタル・ナレッジ デジタルハリウッド大学大学院佐藤昌宏	EdTech 学習アプリの学校内適正利用促進事業	近年、EdTechを中心に多数開発・提供されている学習アプリや学習サービスについて適正なものを学校が認定し児童・生徒が安全に安心して利用できる環境を構築する。 先生はこれらアプリの利用状況や学習履歴を一元的に把握することができるため、児童・生徒の日々の学校活動と併せ見ることで授業や指導を更にきめ細やかに行うことができるだけでなく、アクティブラーニングやICT利活用授業の導入にも応用できる。 具体的には、おせっかいな問題集ATLSの提供するデジタル参考書やベストティーチャーのオンライン英会話などEdTechの学習アプリや学習サービスを提供し、その利用・履歴管理をデジタル・ナレッジのLRS(Learning Record Store)を利用する。
34	(1)	株式会社デジタル・ナレッジ	デジタル教材スポンサー事業	学校(小学校、中学校、高校)で利用する有償のデジタルコンテンツやアプリ、サービス等を塾や予備校等の民間教育機関、大学や専門学校等の進学先、地元企業等の就職先がスポンサーとなることで学校は無償で利用できる環境を構築する。
35	(1)	株式会社デジタル・ナレッジ 株式会社市進ウィングネット	学校・塾等の地域連携・学習記録授受による最適指導事業	学校と塾が連携し、学習者中心の視点で児童・生徒を支える為に学習記録を統合し、きめ細やかで最適な指導を実現する環境を構築する。 学校(中学や高校)での学習記録を学習指導を目的として児童・生徒の同意をもって塾で活用する。塾では、この学習記録と塾での学習記録を統合し一元的に把握することで児童・生徒一人ひとりに最適な指導を行い学力等の向上を図る。具体的には、市進ウィングネット(1200教室以上)等多数の教室を対象に、一部地域にて連携を行う。 また、民間機関と学校が学習記録を相互利用することについて法的、モラル的、公正性などを担保するガイドラインを作成し全国規模で運用する際の適正なルールを策定する。ガイドラインについては民間教育機関に加え、ITビジネス法務や知財経営の専門家である鮫島正洋弁護士など有識者と協議する。このガイドライン雛形は民間機関へ提唱し、最終的には適切な運用のための事務処理を実施する機関による継続事業化を目指す。

No.	募集 種別	提案者名	提案タイトル	提案内容(抜粋)
36	(1)	株式会社デジタル・ナ レッジ 日本大学 大手前大学	高大連携・志望分野事前教育による 最適な進路指導事業	少子化の中、更に大学退学率が高い状態となっている中、生徒一人ひとりの志望分野を見つけ、適切な学校へ進学することは重要である。本アイデアは、この課題を大学・専門学校等(進学先)と、中学・高校・私立学習塾等(在籍校)を連携して、進路検討を支援する事に、学校・家庭・地域の連携の中、学習クラウドを利用するものである。概要としては、様々な分野の進学先の講義・分野教育を MOOC・学習クラウドを利用して幅広く、在籍校を通して生徒に提供し、将来の進路を検討している生徒が学ぶことで、進路検討に役立てる。その履歴により生徒と大学の最適なマッチングを実現し、優秀な人材の育成、退学率の低減を実現する。 継続事業化については特定の大学の広告宣伝に先鋭化しないよう、大学間の連絡会を作り配信カリキュラムとし、会費による継続運営を目指す事業。 更に在籍校での学習記録を進学先でも活用することで、生徒が進学先で学べるようリメディアル教育等にも活用する。
37	(1)	株式会社デジタル・ナ レッジ 日本大学	学習クラウド・高大連携による農業 6 次産業化人材育成事業	人生における将来進路に向けた具体的な検討期間ともいえる「高校～大学」での学びの場を、農業高校と大学が学習クラウド・MOOC 型授業提供により連携(高大連携)することで、6次産業での活躍を目指す人材・地元での活躍を目指す人材にとって、明快な進路目的による学びを享受できる環境を整えることで、日本の農業分野の未来を支える実践的な6次産業化に直結する人材を育成していくことを目的としています。 具体的には、青森県立五所川原農林高校等の農業高校による「中教審アグリマイスター顕彰制度」と、日本大学生物資源科学部の学習クラウド・MOOC 活用の進学教育(就農就労型)が、ワンストップで連携する教育プログラムとして推進することで、優秀な農業人材の育成(学習履歴の管理分析による日本大学への推薦入学・入学時には受講済み講座を単位認定することも視野)と、地域への U ターン就職による地域雇用の創出に繋がり、地域の継続的な6次産業発展・地域活性化、及び分析による農業 6 次化人材育成の育成モデル化に寄与します。
38	(2)	茨城県つくばみらい市 立小絹中学校	施設分離型小中一貫校における学 習支援	施設分離型小中一貫校における学習履歴管理と活用 ・小中学校を通じた学習記録の蓄積と活用による主体的な学習の支援 ・授業で活用する学習素材の蓄積と様々な場面での活用 ・学校での学習進度に合わせた家庭学習支援
39	(2)	つくば市教育委員会	—	・問題解決学習を行う上で、タブレットを活用して、学校や家庭、校外からデジタルコンテンツを活用することで学習効果が期待できる。 ・協働学習やアクティブラーニングを支援するツールとして、デジタルコンテンツを活用することで、学習効果が期待できる。
40	(1)	株式会社 富士通コン ピュータテクノロジー ズ	ロボットを活用したプログラム学習カ リキュラム	PeROBO(Program education by ROBOt material:ピーロボ)は、ロボットを使ったプログラム学習教材と教室運営情報を学習クラウド上に配置し、学習指導者育成、教室開催支援、そして開催後のフォローにより、児童生徒にプログラムへの興味を持たせる事を目的とした体験型学習カリキュラムです。
41	(1)	一般社団法人ロボカッ プジュニア・ジャパン	学習クラウドと実体験の相乗環境	日本のどこでもできる学習と実体験の場の提供 - ロボット競技会*を通じた総合的な学習の具現化 - ・RoboCup Junior は、沖縄から北海道の各地でノードとブロック大会を、日本大会(2014 年 3 月開催、221 チーム、813 名の小、中、高校生など)を開催。 ・RoboCup 世界大会(2014 年 7 月ブラジル大会、20 チーム 51 名参加)に、JST(国際科学技術コンテスト支援事業)の支援を受けメンバー派遣
42	(1)	株式会社リアルグロ ープ	自律分散型卓上プラットフォームとの 連携	設備投資を抑えつつ、離島や過疎地などからも、学習・教育クラウドプラットフォームを活用できるようにするために、自律分散型卓上プラットフォームを設計・開発してオープンソース化するとともに、それとの連携を視野に入れて、学習・教育クラウドプラットフォームの API 設計やコンテンツ形式の標準化を整える。
43	(1)	株式会社JMC	学習記録～校務のデータ連携機能	◆一人ひとりに応じた指導・学習を可能とする学習記録データと、学校における各種管理情報を保有する校務データを連携させることで、きめ細やかな学級運営と学校経営の充実を支援。 ◆将来的には、幼児教育～生涯学習までをカバーする統合型学習者情報プラットフォームへと成長させることを目指す。

No.	募集 種別	提案者名	提案タイトル	提案内容(抜粋)
44	(1)	前橋市教育委員会	画像・映像の泉	学習内容の十分な理解や定着を図るために、画像や映像を学年、教科や領域別に保存し、データベース化して、いつでもどこでも、子どもたちがパソコンやタブレットPCで簡単に閲覧できるようにする。そのことにより、子どもたちが主体的に学ぼうとする意欲が高まると考える。また、そのためには、家庭や学校内で、画像や映像をフリー(無料)で活用でき、更に、公共の場におけるWIFI環境の充実や無料化が必要となると考える。
45	(1)	セイコーエプソン株式会社	個々に合わせた教育支援ツール	デジタル教材を使った学習に加え、アナログ教材を使った学習に対しても学習履歴を蓄積・活用することにより、学校と家庭をつなぎ、児童・生徒一人ひとりに合わせた学習を支援する。 ◆学習・教育クラウド・プラットフォームの機能 <学校と家庭の連携> (1) タブレット端末や電子黒板での学習履歴を蓄積する機能に加え、プリントでの学習も蓄積できる機能 (2) 蓄積された学習履歴から、一人ひとりの進捗や躓きポイントに合わせた教材や課題を選び出す機能 (3) 選び出された教材・課題が、各家庭のPC、タブレット端末等に配信される、または各家庭のプリンターから直接出力される機能 ◆学習クラウドの利用方法 <家庭での個人学習> (1) 教員は授業終了後、個々の進捗や躓きポイントに合わせて抽出された教材から課題を選び配信 (2) 子供は帰宅後、配信された課題をプラットフォームにアクセスして学習、手書きが重要となる課題については、出力されたプリントで学習 (3) 学校での学習履歴を確認、授業を再現して復習 (4) 家庭での学習履歴を蓄積 (5) 蓄積内容は双方向で確認でき、次の授業に活用 ◆技術的要件 クラウドプラットフォームで行われる要素を有効に活用していくためには、従来までの授業スタイルとの融合が重要である。円滑な授業や学習効果の観点からもデジタル教材のみではなく、アナログ教材を主とした授業も学習履歴等が蓄積し共有できる仕組みが必要。そのためには、クラウドが得意とする機能、周辺機器が得意とする機能がそれぞれにあり、それらの面での連携を円滑に行うために、APIを定義していくことが必要であると考え。
46	(1)	カシオ計算機株式会社	21世紀型能力開発-国際交流授業構想	総務省が構築する学習・教育クラウドプラットフォームを利用して、日本の学校と海外の学校をペアリングし、相互に行事や身の回りの出来事の発表、学年レベルに応じて数学の対抗戦、音楽の合奏等を実施する国際交流授業の提案。
47	(1)	シスコシステムズ合同会社	—	I・学習クラウドの機能として、安定した授業を実現するための無線LAN環境の提供(クラウドによる無線LAN環境) II・学習クラウドの利用方法としてビデオ会議システムを使った下記の学習利用方法 II-a 不登校や長期入院児童・生徒向け双方向型および録画可能ビデオ会議システム II-b 山間部や島嶼部・都市部からの遠隔地域での双方向型ビデオ会議システム授業 II-c 公民館や児童館などを活用した双方向型ビデオ会議システム授業

No.	募集 種別	提案者名	提案タイトル	提案内容(抜粋)
48	(2)	株式会社アスデザイン	コンテンツ制作のエコシステムの構築	【概要】 教師や生徒が自身で作成した学習コンテンツを、学習クラウド上で全国の教師や生徒たちと共有する。双方向コミュニケーションにより学習コンテンツが自ら成長していくコンテンツ制作の「エコシステム」を構築する。 【技術的要件】 ・ パソコン、タブレットやスマートフォンといった端末や OS に縛られることがない HTML5 による学習コンテンツ作成プラットフォームを提供する。生徒でも使用できる明快な操作性を持ち、簡易に教材が作れるようにする。 ・ 教師や生徒が作成した学習コンテンツを学習クラウド上にアップロードし、管理者が適切なコンテンツを選定（不適切なコンテンツを排除）した後に、ダウンロードできるようにする。 ・ 学校や学習塾ごとに管理者を定め、現場に合ったコンテンツを選定して共有することで、学習に活かす。
			学習塾や家庭で利用可能な学習タグおよび API の策定	【概要】 学校での学習履歴を元に、学習クラウド上に自動的に生成されるタグのデータベース及び API を策定する。このタグを読み込むことにより、学習塾や家庭で利用する学習ソフトウェアを生徒一人ひとりに合わせた形でカスタマイズすることができる。生徒一人ひとりの習熟度に合わせた効率的な学習カリキュラムの提供が可能となる。 【技術的要件】 ・ 電子黒板やタブレットを用いた学校での学習履歴を「学習タグ」としてクラウドに出力する仕様を策定する。 ・ 「学習タグ」は時刻ごとに、適宜学習クラウドに保存する。生徒一人一日1ファイルのデータベースが蓄積される。 ・ 利用者（塾等）は「学習タグ」を API 経由で取得、解析し、学習ソフトウェアのコンテンツを調整する。
49	(1)	株式会社エイエイエス	高度なセキュア環境の情報連携基盤の活用	「学習・教育クラウド・プラットフォーム」では、自治体、各教育機関・国内外国語学校・海外留学時学校が保有する児童・生徒に関する個人情報を連携することにより将来活用する場面を想定して「高度なセキュア環境の情報連携基盤」の適用を提案する。エストニアの電子政府で活用されている オープンソース X-road を利用した個人情報のアクセス許可制によるセキュリティ確保と情報連携の可能性を下記に示す。利点 本人の成績・取得資格が DB に存在する。 参照は、アクセス許可が必要なものとログから確認が可能。 インターネット利用のためどこでもアクセス可能。
50	(1)	21世紀の寺子屋未来塾を創る研究会	空間映像から観て学ぶ寺子屋未来塾	教育専用イントラネットモバイル回線基盤提供サービスを活用して、今までに観たことがない空間映像で、動画を操作し、文字タグをタッチして歴史資料、文化資料、地理資料等の詳細内容を閲覧（イメージ図・文字説明・音声説明等）表示することができ、また、地図から学ぶ電子図鑑では、地図にマークが表示された所をタッチすると登録されている歴史資料・文化資料・植物図鑑等詳細内容を閲覧（イメージ写真・文字説明・音声説明等）表示で、社会科等の教育を支援する。
51	(2)	株式会社さくら塾	ハイブリッド型学習指導	個別指導に主軸を置いた集団指導との融合指導スタイルに、ICT（学習クラウド）を用いることで個別指導を反転化し、さらに従来型集団指導の利点を最大限に活かす。これらが共存することで欠点をそれぞれ補完し合うハイブリッド型学習指導を提案する。 本提案では、ICT（学習クラウド）を「各指導教科の特性や対象者を考慮した適切な直接対面指導実現のための総合ツール」として位置付ける。

No.	募集 種別	提案者名	提案タイトル	提案内容(抜粋)
52	(2)	株式会社エフエム東京	V-Low マルチメディア放送を用いた教育コンテンツ配信システムの実証実験の実施	【実験概要】 V-Low マルチメディア放送を用いて教育コンテンツを配信するシステムの実証実験を行う 【主な3つのメリット】 1. 放送用電波を利用した V-Low マルチメディア放送により Wi-Fi 環境が無い生徒でも学習クラウドの利用が可能 2. 放送波の利用環境では生徒はデータのアップロードは出来ず、教材のダウンロードのみの利用となるため、インターネットアクセスにおけるセキュリティリスクの集中管理が容易 3. 災害等の緊急時には、輻輳無く最も確実な情報配信手段の提供が可能
53	(1)	株式会社エフエム東京	V-Low マルチメディア放送を用いた教育コンテンツ配信システムの構築	【機能】 V-Low マルチメディア放送を用いて教育コンテンツを配信するシステムを構築する 【主な3つのメリット】 1. 放送波を利用した V-Low マルチメディア放送により、Wi-Fi 環境が無い生徒でも学習クラウドの利用が可能 2. 放送波の利用環境では生徒はデータのアップロードは出来ず、教材のダウンロードのみの利用となるため、インターネットアクセスにおけるセキュリティリスクの集中管理が容易 3. 災害等の緊急時には、輻輳無く最も確実な情報配信手段の提供が可能
54	(1)	株式会社メイテツコム	学習・教育クラウドプラットフォームを活用した体験活動のO2Oの実現	体験活動とは、自分の身体を通して実地に経験し、身体全体で対象に働きかけ、学習する活動のことである。体験活動には、実物に実際に関わっていく「直接体験」と、インターネットやテレビ等を介して学びとる「間接体験」がある。両者を、学習・教育クラウドプラットフォームと、スマートフォンやタブレット PC を活用することにより、「直接体験(Offline)」と「間接体験(Online)」をシームレスに繋ぎO2Oを実現することで、体験活動の効果を一層向上させることに資する。
55	(2)	NPO 法人 eboard	島根県中山間地域公営塾での利活用	島根県内離島・中山間地域では、過疎化にともなう子どもの減少、学校・学級の統廃合が進んでおり、学力や学校外の学習環境に困難を抱える地域が多くなっています。吉賀町では、2013 年 8 月から学習クラウドにも提供させて頂いている学習サイト eboard を活用し、町の予算で公営塾での学習支援を行っています。来年度も、eboard の発展的な活用、また学習クラウド内のサービスの充実に合わせて、リソースの限られた中山間地域での学習支援モデルとなるよう、取り組みを継続・発展させていきます。
56	(1)	NPO 法人 eboard	教材・素材ライブラリ	教育情報化を進めていくにあたり、従来のアナログ教材以上の教材コンテンツの確保が求められています。しかし、デジタル教材は著作権の問題、先生の自作が困難なことなど、多くの課題を抱えています。学習クラウド内に、クラウド内のみで使える教材・素材のライブラリ、またそれに付随する教材制作・共有機能などがあれば、自作教材の制作も容易になり、教材の確保にもつながります。ライブラリの利用を API で提供することで、企業も協働学習や学習管理のアプリ開発に取り組める環境が整備できると考えます。
57	(1)	インテル株式会社	学習履歴を活用したコンテンツ・エコシステムの形成	問題解決型人材を育成する「21 世紀型スキル」教育は、児童・生徒ひとりひとりに合わせた教育により実現される。効果的にこの新しい教育を行うために、学習・教育クラウドに学習履歴データを集積し分析できることが必要となる。これに加え、集約した学習履歴を匿名化したうえで、教育サービスやコンテンツ開発事業者向けに安全に公開する仕組み(API)を整備し、より効果的な学習のためのサービス・コンテンツ作りに活用できるエコシステム形成の基盤とする。
			グローバル・コミュニケーション基盤としてのクラウド	「21 世紀型スキル」の中の主要なスキルのひとつとして、コミュニケーション能力がある。教室・学校、さらには国・文化の垣根を越え、他者とのコミュニケーションにより主体的に学び、課題を解決していく能力を身に付けることが次代の児童・生徒に求められる。そのために、学習・教育クラウドをコミュニケーションの起点となるプラットフォームとして構築する。具体的には、教師や e ラーニング・トレーナー、NPO などが学習者のためのコーディネーターとして機能できる SNS 機能を持たせ、学習者が適切に・効率よく学習できる仕組みを設ける。

No.	募集 種別	提案者名	提案タイトル	提案内容(抜粋)
58	(1)	株式会社 コトラボ 株式会社 ジェナ	リアルをデジタルに変える、新しい体験学習型の授業	子供たちがリアルに感じたアート/植物をデジタルコンテンツ化する授業を展開します。リアルを体感し、デジタルコンテンツを「自ら創る」ことで、理解を深める手助けをし、より深くリアルを体感できるようになります。その思考を繰り返し、創造力や表現力を磨いていく授業です。これらは、Beacon や GPS など、位置情報とコンテンツを結びつけるクラウドによって実現します。
59	(1)	株式会社電通・株式会社カブク	ものづくり ICT を活用したデジタルものづくり教育プラットフォーム	■学習クラウドの機能 ・デジタルものづくり教育ツールサービスの提供 ・デジタルものづくり教育ツール開発効率化のためのモデリングエンジン・3D データ DB 提供 ・3D プリント製造サービスなどの外部製造サービス連携 ・共通コミュニティ基盤連携機能 ■学習クラウドの利用方法 小中学校向けデジタルものづくり教育 ■技術的要件 ・3D プリント可能なデータへの変換処理技術 ・3D データ修正処理技術 ・汎用 3D モデリングエンジン ・外部サービス連携 API 開発 ※実施にあたっての想定校種・想定エリア例 ・三条市&燕市:燕三条伝統工芸を活用した小中教育向けツール提供 ・金沢市:工業高校向け 3D モデリングエンジン、データ提供
60	(1)	NTTラーニングシステムズ	学習記録～校務のデータ連携機能	◆一人ひとりに応じた指導・学習を可能とする学習記録データと、学校における各種管理情報を保有する校務データを連携させることで、きめ細やかな学級運営と学校経営の充実に支援。 ◆将来的には、幼児教育～生涯学習までをカバーする統合型学習者情報プラットフォームへと成長させることを目指す。
61	(1)	株式会社フルノシステムズ	教育クラウドにおける無線LANプラットフォーム技術要件	教育クラウドに求められる技術的要件 「先導的教育システム実証事業や各事業者との連携を通じて、クラウド利用による安定・安心の無線 LAN プラットフォームの整備」
62	(2)	荒川区教育委員会	サーバ連携による学習システムの構築	学習履歴の共有(学習カルテの作成・共有) サーバ間連携によるコストの低廉化 教員専用ポータルサイトの構築
63	(1)	細田千尋 東京大学 大学院総合文化研究科／さきがけ研究員 成相直 東京医科歯科大学脳神経機能外科学分野 准教授	多次元脳データ(脳構造と生体情報)を用いたテラメードオンライン教育法開発	能力の個人差や、学習を根気強く継続できるか人か？という学習性向について、脳構造の発達度合いの個人差から判別できる事を申請者らは明らかにしてきた。(Hosoda et al, 2013) これら脳科学研究より得られた成果は、学習モデルの同定等に活用できると考える。このような脳科学研究の成果を学習クラウドの効率的な運用にいかすための手法を提案する。提案者らが研究中の正常者や脳疾患者の脳構造データや学習時の生体計測により得られた多次元脳データを利用し、個に応じたテラメードの学習環境の構築を目的とする。これにより ICT 教育における学習継続困難者を減らし、脳疾患患者への ICT 教育の応用も可能となると予想される。そのために必要とされる生体情報を選定し、プロトコルの標準化及びシステム開発を行う。

No.	募集 種別	提案者名	提案タイトル	提案内容(抜粋)
64	(2)	特定非営利活動法人 フェロー・ジョブステー ション	放課後等サービスにおけるICT利活 用 就労・自立支援実証事業	放課後等サービス事業所『フェロー Labo』において、学習・教育クラウドプラットフォームを活用することで、障がい児の自立及び、将来プロフェッショナルとして、活躍できる人財となるよう、最先端の教育システムの構築を目指した実証を行う。
65	(2)	株式会社 LITALICO	学習者情報管理・共有プラットフォー ム	具体的な利用方法： 学習塾における個別最適なプログラム計画策定と学びの進捗管理、および関係機関との情報共有 必要な機能： ・学習者プロフィール(視覚優位や聴覚優位・同時処理や継次処理といった学習様式やこだわりの幅、強みや弱みなど)のアセスメントができるアセスメント機能 ・学習者プロフィールに合わせた目標および個別最適な教材コンテンツのレコメンド機能(指導計画として出力可) ・学びの進捗を管理する記録機能 ・保護者・関係機関(学校・他の療育機関・医師など)と情報共有やケース会議ができる機能
66	(1)	株式会社メディアドゥ	電子図書館システム	利用者は、自宅にしながら図書館の Web サイトに接続し、読みたい電子書籍を探し閲覧することができます。 電子書籍はパソコンや、iPad や iPhone、Android スマートフォンやタブレットで閲覧することができます。
67	(1)	古河市教育委員会	スクールライフ・プラットフォーム	One to One のタブレット環境に求められるプラットフォームとは何か？それは、システム手帳のような万能プラットフォームである。学校でも、家でもタブレットを通して、学びが繋がるシステム！学校に行けなくても、クラウドで学校と繋がるシステム！学習者と先生と保護者が情報共有で繋がるシステム！
68	(1)	情報技術開発株式会 社	各種アプリ・リソースへのアクセスを 可能とするシングルサインオン(以下 SSO)の提 案	「代理入力方式を採用したシングルサインオン(以下 SSO)」による 認証標準化の提案。 小中学校の学習過程で利用するのは、WEB コンテンツや WEB アプリに限定されるものではなく、これ以外にも、Windows アプリや、サーバ上の個人フォルダ・各種情報・リソースなど、様々なものが存在しています。 大学で多く採用されているオープンソースをベースとした SSO は、WEB アクセスに限定した機能であるため、小中学校への展開には不向きであると言えます。(SSO ができないアプリやリソースへのアクセスに際しては、児童・生徒に ID・パスワードの入力を要求することになってしまうため。) 学習過程で利用する全ての情報に SSO できることは技術上の必須要件であるため、その実現手段として「ID・パスワードの代理入力方式」による SSO を提案します。 代理入力の SSO を行うためには、各アプリ・サイトの画面を識別することが必要となりますが、その画面識別のためのキー情報等を ICT ドリームスクールとして標準化することにより、コンテンツ作成各社が参画しやすい環境を築くとともに、SSO の普及を促進することが可能となります。
69	(2)	横浜市立若葉台特別 支援学校	有線環境での特別支援学校におけ る活用	・無線 LAN の整備がなく、クラウド利用にも制限がある環境(クラウドストレージの利用ができない)における学習・教育クラウドの活用の可能性について検証をおこなう ・特別支援学校(肢体不自由教育部門・知的障害教育部門)での学習・教育クラウドからの教材等コンテンツ活用の可能性について検証をおこなう

No.	募集 種別	提案者名	提案タイトル	提案内容(抜粋)
70	(1)	箕面市立南小学校 箕面市教育委員会	教員が開発した電子コンテンツの集約配信システムの構築～研究助成で魅力ある実践を集めるアイデア～	教員が開発した優れた電子教材・資料をクラウド上に集約しコンテンツとして配信するシステム。 登録した個人・学校・グループに対しては対価に見合った研究助成を行う。 子どもの実態に即し創意工夫をこらした電子教材(例えばプレゼンソフトを活用した指導資料など)が普及されることで多くの教員の支援ツールとなる。 教育実践を報告する機会があることで、教員が実践的指導力を高める研究への意欲向上につながる。
71	(2)	大阪府箕面市	広告付き教育コンテンツ提供モデル	学習クラウドに民間企業を含む幅広い主体が参加し、教育コンテンツを多様なものにすることを目的とし、児童・生徒の学習に悪影響を与えない程度の企業名広告をコンテンツに付けることを認める。今回の提案では、花まる学習会の持つ教育コンテンツに企業名広告を付け、箕面市内の学校で学習教材として利用を行う。
72	(2)	兵庫県教育委員会	先導的な教育システム実証事業	教育クラウドの活用を通して、核となる小学校・中学校・特別支援学校として研究を推進→課題である市町間格差の解消
73	(2)	佐賀県教育委員会	学習者クラウドに搭載すべき機能・利用方法、技術的要件	【学習者クラウドに搭載すべき機能・利用方法】 ・デジタルテスト ・アンケート ・教材・課題配布等 ・お知らせ・資料配付(メッセージ、掲示板、SNS機能) ・学習履歴(ポートフォリオ) ・遠隔授業・交流 【技術的要件】 オフラインでの利活用を考慮したシステム
74	(2)	生駒市立生駒小学校	音声読み上げ機能に対応したオンライン教材	読みに困難のある児童が、自宅や通級で学習するとき、音声読み上げ機能に対応した便利なオンライン教材がほしい。読みに困難があると、教科書を読んでも内容が理解できない。しかし、認知能力は担保されているので、読み上げられる部分がハイライトで表示され、同時に音声で出力されると、十分に理解できるので、学習の概要が分かって、授業に参加できると思われる。そこで、単元のアウトラインを音声読み上げ機能に対応させて教材化し、クラウド上にあげてもらう。また、通級や家で使うので、どこまで学習したかが分かる、続きから勉強できる機能をつけてほしい。このオンライン教材は、読みに困難な児童のみならず、不登校の児童が家で自学自習する資源にもなり得る可能性を持つ。
75	(1)	シャープ株式会社	学習クラウドを利用した遠隔教育システム	離島・分校の複式学校と本校を接続した遠隔教育システム ・互いの子どもが同一の授業を行うための教科書教材管理システム ・互いの子どもを平等に教えるための学習記録／履歴のクラウド管理 ・両校の子どもたちのコミュニケーションを促進するための SNS システム